

— 地方談話会 —

冬への挑戦

昭和59年2月7日、釧路市との共催により「冬への挑戦」と題して、地方談話会が、釧根地域婦人会館を会場に開催されました。この日は、最低気温が -21.4°C と冷え込みましたが、約70人の市民が熱心に参加しました。

今回は、テーマとして、釧路市の足元の道路の除雪の話題、釧路市の後背地に広がる湿原の四季の移り変わり、そして、前方に位置する冬の海に関するものを選び、三人の講師に方々により会が進められました。はじめに、木下誠一支部長（北大低温研所長）と、髙淵（わにぶち）釧路市長のあいさつがあったあと、釧路開発建設部道路二課の磯部大臣課長補佐が「冬期間の道路維持（除雪）」、続いて釧路市博物館の新庄久志学芸員が「釧路湿原の植物」、そして釧路海上保安部の今野宗郎部長が「冬期の道東沖の海難状況」をテーマに講演されました。磯部氏は、一般にあまり知られていない除雪の体制や、除雪の費用など現場の話題を話され、新庄氏からは、冷涼な環境にある湿原の植物について、スライドを使用したわかりやすい紹介がありました。最後に、今野氏が陸上海上での豊富な経験をもとに、道東沖の冬の海の恐ろしさを、ごく最近の海難の実例を引用して説明し、海の厳しさを訴え、講演をしめくりました。参加者の中には、水産都市釧路にふさわしく、漁業関係者の方々も参加され、質疑のあと上映された「流水そのなぞを追って」の映画に熱心に見入っている姿が印象的でした。

今回の地方談話会は、地元釧路市の企画室を中心とする関係機関の強力な援助のもとに行なわれました。ここに紙面をかりて、講師の方々、関係者の皆様方のお力添えに、厚くお礼申し上げます。
(矢作 裕)



釧路地方談話会における聴衆